

## 5. 「防災」を当たり前にする

自然災害はいつ起きるかどのような被害が発生するのかを事前に知ることはできませんが、どこで何がどのように起きるのかについては概ね知ることができます。災害は突発性があり、発生すれば相当な被害や犠牲が出ることとなりますが、大事なことは、事前に可能な限りリスクを特定して、常に神経を尖らせて臨戦態勢でいる必要はありませんが、無監視ではいけないと思います。それゆえに自然災害への備えは、日常的な生活の中の知識として定着させることが最も望ましいということになります。例えば、健康を考えてみずと基礎的な体力が健全であるということは、日ごろの生活の積み重ねが維持継続されているということになります。したがって、日常なこと、睡眠、栄養、ストレス発散のための趣味、適度な運動を無意識のうちに行われ続けていることによる成果が健康であるということになります。しかし、急に健康にということではサプリメントを飲みはじめたりなれない運動では続きません。ここで大事なことは関心を持ち続けることだと思います。それには基礎データを得るということや定期的な健康診断というようなことになると思います。無関心のまま、気ままな生活が一番とせず、日ごろの積み重ねが正にも負にもなるということを感じたいものです。自然災害への備えも、健康維持と同じで、日ごろから地域に関心を持ち自然現象の変化などを知ることと、わが国は災害列島であるために、不幸ながらどこかで自然災害が発生して、大きな人的物的損害が発生しています。これを対岸の火事ということで気楽に傍観してはいけません。いつ、わが身になるかもしれませんので、自分と地域や居住環境に合わせて、シミュレーションするとか家族や地域の人たちと話し合うということに活用して欲しいと思います。最近、自治体ではさまざまな災害に関するハザードマップや避難方法などが発信されていますので、関心を持っておくことも大事なことです。関心を持つことが当たり前になれば、自然災害への対応力はアップして、何かあれば直観力が芽生えてくるし、それが大きな地域防災力となって、行政の向上にも役に立つということにつながります。また、日ごろからの関心が積層することが、異常発見の早期化にもつながりますし、ひいては余計なコストの削減にもつながるといって一石数鳥のものとなると思います。自然災害は発生しないに越したことはありませんが、自然現象とわれわれの生活スタイルとの反応であることを考えれば、被害を抑制するには、スタイルを改善していく以外にありません。そのためにも、これまでの経験や対岸の火事を見て他山の石としたいものです。防災には明確な定式がありませんので、修正や改善、機会を見つけて地域や生活環境を見直して、工夫や創造的な営為が求められていることとなります。